

安心と笑顔
心つながる場所がここにある

Contents

- ・ 就任のご挨拶
- ・ 介護老人保健施設の先生のご紹介
- ・ 地域連携室から
- ・ 病棟の取り組み
- ・ 当院のリハビリテーション



病院長ごあいさつ

荒木 康之

TATTA第2刊は、病棟紹介となっています。当院は回復期リハ病棟、医療療養病棟、緩和ケア病棟とそれぞれ異なる機能をもった3つの病棟で構成されています。そのことが、当院の強みとなっており、相談いただければ、適切な病棟で患者さんを診させていただけると思っています。各病棟の雰囲気も感じていただけたらと思います。

新任のご挨拶



◎7月から事務は新たな顔ぶれになりました

●岡事務長 より



令和6年7月より事務長に就任しました、岡覚と申します。日頃より、患者さん・ご家族の方々・地域の皆さん・医療福祉関係者の方々には、病院運営にご支援頂きありがとうございます。

医療を取り巻く環境は、高齢化社会・賃上げ・コロナ禍等、引き続き厳しい環境下にあります。また機能分化や地域連携の強化が求められ、地域における立ち位置の明確化が重要視されています。当院は、医療法人和同会広島地区3病院では、唯一回復期・緩和ケア病棟・介護付有料老人ホームを有しており、「医療・保健・福祉の分野で連携充実を図り、地域のニーズに応えます」という病院理念のもとに、地域医療に貢献したいと考えております。

また事務長の職務としては、事務の効率化・改善等により業務の質を上げ、各部門が円滑に業務遂行できるよう、各職種職員の意見を聞き、調整・問題解決能力を持った事務部の構築を行っていきたく考えています。職責を果たせるよう努力して参りますので、宜しくお願い申し上げます。

●岡本事務長代行 より



7月1日付の異動で、広島シーサイド病院から広島パークヒル病院事務長代行に就任しました。同一法人内の病院ではありますが、病棟の機能が異なりますし、介護老人保健施設や有料老人ホームも併設していますので、戸惑うことも多々あります。とは言え、これを機会に心機一転業務に励む所存です。

近年、医療と介護を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、決して楽観できるものではありません。このような環境の中でも地域に根差して安定した病院運営を行うためには、各々の役割は異なりますが、多職種連携して目標に向かって行動することが必要です。私達事務方は、病院院長や看護部長を中心とした現場を下支える一助でありたいと願っております。

引き続き、広島パークヒル病院にご支援賜りますと共に、ご指導よろしくようお願い申し上げます。

介護老人保健施設 西広島幸楽苑の 医師のご紹介

●羽路一医師 より

令和6年4月に介護老人保健施設西広島幸楽苑の医師として入職しました羽路一です。8月から広島パークヒル病院外来診療も担当しております。平成3年卒で広島大学第2外科に入局し、以後約20年消化器外科、一般外科に従事し、その後十数年間高齢者医療に従事してきました。こちらに来て感じたことは、病院併設の施設であり、病院との情報共有がしっかりとされているということでした。一方で、多くの施設が抱える人員確保の問題といった課題も感じました。今後は老健施設のもつ多職種連携をさらに充実させ、入所者さんにご家族のニーズに合った医療、介護を提供していきたいと思っていますので、よろしくお願いたします。



●土井謙司医師 より

7月1日より介護老人保健施設西広島幸楽苑、8月から広島パークヒル病院に勤務させていただいています。今まではケアミックス病院で仕事をしていたので、急性期の患者さんへの刻一刻の対応を求められることもありましたが、慢性期病棟におられる患者さんにも決して一定不変ではありませんでした。

こちらでは多くのご高齢の方が慢性期状態として療養されています。お一人お一人が毎日を四苦八苦することなく、より快適に過ごして戴けるよう、ご本人、ご家族の方々に真摯に向き合って参りますので、宜しくお願いします。と言いながら、久しぶりに紙カルテに触れ、診療録や処方際に際して、過去何年か分に相当するであろう文字を書いています。9月からは電子カルテ+介護システム導入とのことですので、毫碌した身は戸惑うばかり。いろいろご指導下さいますようお願い申し上げます。



回復期リハビリ病棟

当病棟は、骨折等の運動器疾患、脳血管疾患、肺炎や外科的治療後の廃用症候群など、急性期治療を脱した患者さんに対し、集中的なリハビリテーションを実施しています。ご紹介いただいた患者さんが迅速に入院できるよう、日々地域連携室と調整しています。

最近の紹介患者さんの傾向として、超高齢、医療依存度が高い、重度の認知症の方が増加しています。“患者さんの立場に立った、やさしい看護の実践”という病棟方針を掲げ、介護施設や通所、訪問の介護保険サービス事業所を併設している強みを活かし、住み慣れた地域に退院していただけるよう支援しています。

病床数	46床 (多床室 40床・有料個室 6床)
医師	川本 雅英
看護師長	松島 佳代
看護師	19名
看護補助者	7名
関連職員	リハビリスタッフ・相談員・薬剤師 管理栄養士

●川本雅英医師 より

(平成2年JA吉田総合病院に約30年従事。令和3年～当院回り八病棟担当。内科一般。)

私が広島パークヒル病院に来て、約3年が過ぎました。まず気付いたのは「離床」ベッドから車椅子、椅子に座りかえて食事をとることが患者さんの回復にとって重要だということでした。誤嚥性肺炎、発熱が(急性期に比べ)明らかに少ないと感じます。患者さん全員が元気に歩けるようになり退院して頂ければ良いのですが、超高齢、認知症の有無、基礎の有無(心不全、呼吸不全等)、意欲低下などにより一人一人経過が異なり、時には入院数日で急変される場合もあります。「パークヒル病院に入院して良かった」と思ってもらえるようスタッフ一同協力し、これからも診療にあたっていきたいと思っています。

病棟の様子



リハビリの合間も、お花見したり、塗り絵や脳トレなど、楽しく取り組んでいただいています。

●担当薬剤師から一言

回復期リハビリテーション病棟に入院される患者さんは、高齢で多数の薬剤を内服していることがあり、ポリファーマシーの改善に取り組んでいます。また、ふらつきやせん妄など、薬剤による有害事象の有無や、ADLの改善状況など、多職種との連携をとりながら、薬剤の適正使用に関する介入を行っています。

医療療養病棟

医療療養病棟は、急性期の後方病院としての役割を維持し、長期療養はもちろん、患者・家族の希望に合わせた在宅支援にも力を入れ、リハビリをはじめ多職種連携を大切に、職員全員で取り組んでいます。

また、毎週水曜日には、回診を行い、日々の変化や状況を把握し、患者さん一人一人と向き合い、個別性のあるケアにつながるよう努力しています。

今年度は、長期療養の活性化を図るため、離床活動や、レクリエーション活動にも積極的に取り組んでいきたいと考えています。

病床数	50床 (多床室 48床・個室 2床)
医師	荒木 康之
看護師長	中林 英美
看護師	18名
看護補助者	6名
関連職員	リハビリスタッフ・相談員・薬剤師 管理栄養士

●荒木康之医師 より

2021年4月から広島パークヒル病院に就職、医療療養病棟の担当をしています。それまで、広島市立広島市民病院に33年間勤務していましたので、急性期の経験しかなく、慢性期の患者さんの診察に戸惑いがありました。現在は、急性期からの患者さんを積極的に受け入れて、急性期のニーズにこたえていきたいと思っています。さらに、広島パークヒル病院に入院した患者さん、家族の皆さん方に喜んでいただける医療を提供していきたいと思っています。

病棟の様子



季節の飾りつけは、介護士のアイデアです。



経口摂取される患者さんだけでなく、
注入食の患者さんの離床も計画的に実施しています。

●担当栄養士から一言

栄養カンファレンスに参加し積極的に意見交換を行い低栄養状態の改善に力を入れています。また経口摂取移行の取り組みが多職種で始まり、管理栄養士は食形態や補助食品についてサポートを行っています。

緩和ケア病棟

当院は緩和ケア入院料2を取得しており、比較的長期でも入院療養が可能なことが特徴です。

病棟は最上階に位置し、静かな環境と眺望の良さが患者さんやご家族には大変好評です。昨年より無料の個室を増床し、少しでも穏やかな日々を過ごしていただけるよう、『最善』を目指しスタッフ全員で努力しています。

病床数	18床 完全個室(有料 2床・無料 16床)
医師	番匠谷 孝廣
看護師長	増田 知子
看護師	15名
看護補助者	3名
関連職員	リハビリスタッフ・相談員・薬剤師 管理栄養士・ボランティアスタッフ

●番匠谷孝廣医師 より



令和3年4月に入職しました番匠谷孝廣(ばんしょうだにたかひろ)です。出身地は、広島県呉市で出身校は呉三津田高校です。昭和51年に広島大学医学部を卒業し、その年に第2外科に入局しました。入局2年目に土谷総合病院に出向し、一般外科と透析の研修を受けました。日々アップと外シャントの血栓除去に明け暮れていました。また当時の透析患者さんは、脳出血を合併される方が多く、人工呼吸器装着のために気管切開を平均月1回のペースで行っていました。平成21年、廿日市記念病院に勤務した時、緩和医療にめぐり逢い、現在パークヒル病院で緩和ケア専従医として働いています。微力ながら頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。

ボランティア活動について

私たちボランティアは、開設時の担当医の依頼により、ボランティア活動をゆっくりと開始しました。とにかく「病院に依存しないで、自立した活動をしてほしい」というのが担当医の意向でした。基本的には患者さん、ご家族のお気持ちに寄り添い、1日のうちで少しでもほっとする、病気の事を少し横においておける時間を持って欲しいとの思いで患者さん、ご家族のお話を聞かせてもらったり、行事やイベントを行ったりしています。それが、2020年新型コロナウイルスの猛威により活動が中止となりましたが、2023年9月から感染対策をしながら少しずつ活動を再開しています。今後は活動内容も拡充して予定です。



面会について

コロナ禍でさまざまな制限を設けながらの対応でしたが、7月より緩和ケア病棟のみ9時から20時までの面会へ変更しました。滞在時間や回数など特に制限は設けていません。その他ご家族の希望に応じ、付き添いも可能とし患者様、ご家族の意向に沿って柔軟に対応しています。



6月より担当の理学療法士が時間配置となりました。個々のニーズに寄り添って、終末期リハビリテーションを提供しています。

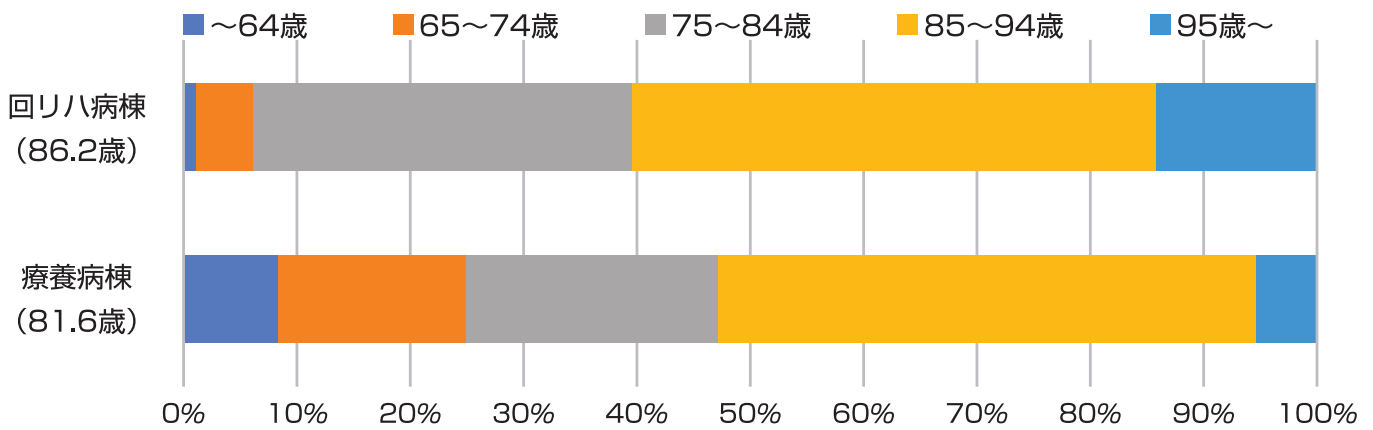
リハビリテーション

当院では、高齢者を主な対象として、入院（回復期リハビリテーション病棟・療養病棟・緩和ケア病棟）リハビリテーションと訪問リハビリテーションを実施しています。

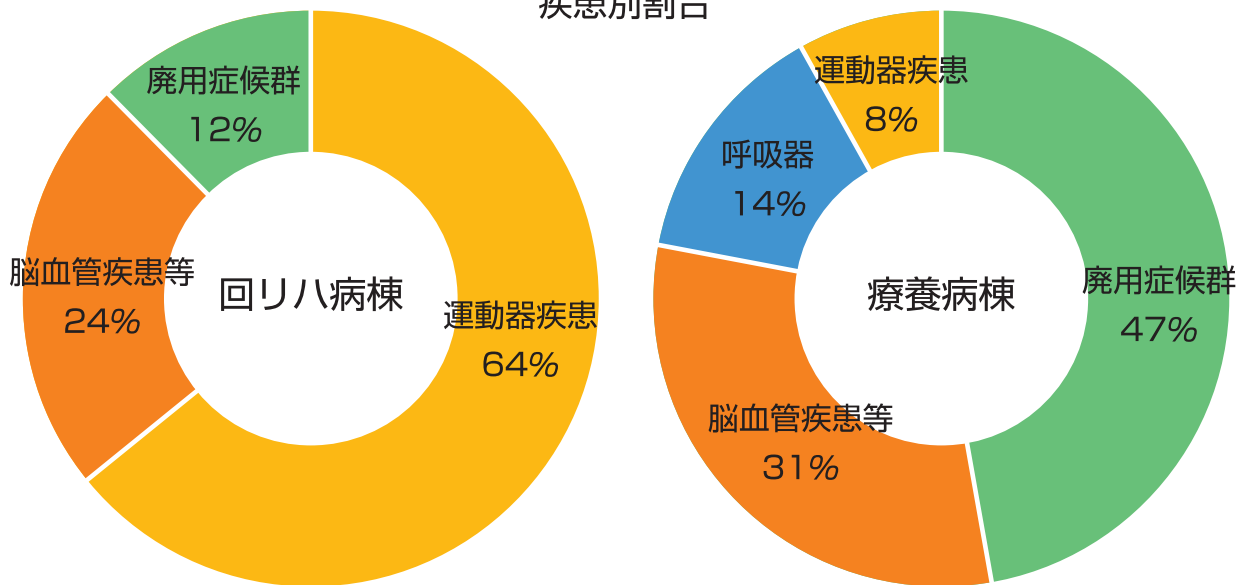
『高齢であっても、障がいがあっても、認知機能が低下していても、対象者とその周りの人々の持つ力を最大限に引き出し、その人らしい暮らしを実現する』をリハビリテーションセンターのミッションとして、入院から退院後まで、医療分野から介護分野まで、院内および関連医療機関や多職種と「れんけい（連携・連携）」を図り、対象者一人ひとりの個別性を重視したリハビリテーションを実践しています。

併設の介護老人保健施設西広島幸楽苑でも入所（短期入所）・通所リハビリテーションを提供し、入院から退院後まで、切れ目のないリハビリテーションサービスを展開しています。

リハビリテーション実施者の年齢構成



疾患別割合



2023年度退院患者情報

【リハビリテーションスタッフ】

理学療法士 15名
 作業療法士 7名
 言語聴覚士 1名
 (老健含)

【リハビリテーション施設基準】

脳血管疾患等リハビリテーション I
 運動器リハビリテーション I
 呼吸器リハビリテーション I
 廃用症候群リハビリテーション I



地域連携室から ～2024年後半のチャレンジ～

◎2023年度実績

	回復期リハビリ病棟	医療療養病棟	緩和ケア病棟
入院相談件数	159件	129件	137件
入院待機日数	9.4日	5.9日	9.3日
入院患者延べ数	169人	98人	72人
平均年齢	85.6歳	84.9歳	81歳
平均在院日数	77.5日	165.5日	69.8日

入院相談件数は、ほぼ例年通りの問い合わせをいただいております。入院相談受付後は各病棟で入院判定会議を開催します。回復期リハビリ病棟では95%以上、医療療養病棟も80%以上の割合で入院対応可能と判断し、入院に向けて調整を行っています。最近の相談内容の傾向として、身寄りがないケース、経済的に困窮しているケース等、社会的な背景がある方の入院相談が増えていると感じています。地域医療連携室では入院前に情報収集や社会福祉の調整に努め、患者さん・ご家族が安心して入院いただけるように心掛けています。

厚生労働省の受療行動調査の概況（令和2年）で、療養型を有する病院では、入院待機日数が1週間以上必要な病院が34.6%との報告がありました。当院の入院待機日数と比較すると早期の受け入れ対応ができていると思われます。入院希望病棟が不明な場合の相談でも、相談内容を伺いながら病棟間の調整を行い、広島パークヒル病院全体で入院対応を考えていることも入院待機日数の縮減に繋がっているものと考えています。

緩和ケア病棟を含め、当院は高齢者の入院が多く、認知症高齢者日常生活自立度がⅢ以上に該当する方が入院者の半数以上（52.0%）の割合です。入院期間が比較的長期に及ぶため各病棟の環境にも慣れ、多職種の連携により落ち着いた生活を送っていただけているものと考えます。

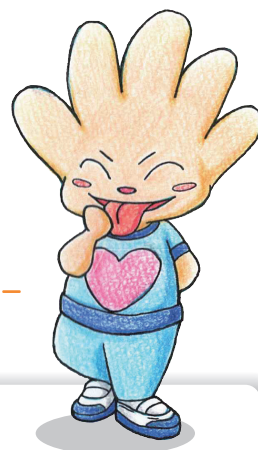
在宅復帰率は回復期リハビリ病棟で80%以上ですが、医療療養病棟入院後、医療の必要性がなくなった患者さん、在宅や施設的环境が患者さんにとってQOLの向上につながる方に、退院支援を行っています。医療療養病棟からの在宅復帰率は15.4%で在宅復帰後には、相談員が在宅等にお伺いし生活場面を確認させていただくこともあります。入院中とは違った患者さんの表情を見る事が出来るのも楽しみの一つとなっています。

これからも地域の医療関係者の皆様に喜んでいただける医療機関を目指してまいります。ご指導のほどよろしくお願い致します。

● 広報誌「たった(TATTA)」の由来

「たう」という言葉があります。広島弁の「たう」とは手が届くという意味で用います。各医療機関に当院の思いが届きますよとの願いから「届いた?⇒たった?⇒たった(TATTA)」と名付けました。

広報誌イメージキャラクター「たった」同様に、当院広報誌「TATTA」も気にかけていただければ嬉しいです。これからもよろしくお願ひします。



広報誌
イメージキャラクター
たった

■ 病院理念

◎ 常に患者さんご家族の立場に立って考え行動し、医療・保健・福祉の分野で連携充実を図り、地域のニーズに応えます

■ 基本方針

- ① 研鑽と協調に努め、安全で質の高い医療サービスを目指します
- ② 地域住民と共に歩み、互いに尊重し、喜び、生きがいのある医療を推進します
- ③ 豊かな人間性を養い、資質の向上に努めます

外来のご案内 休診日/土・日曜日、祝祭日、盆、年末年始

診療時間	月	火	水	木	金
9:00~12:00	羽路	土井	池田	羽路	土井 番匠谷
14:00~16:00	池田	川本	池田	池田	荒木

医療法人 和同会

広島パークヒル病院



診療科目/内科・脳神経内科・リハビリテーション科・放射線科
回復期リハビリテーション46床・医療療養50床・緩和ケア18床

〒733-0851 広島市西区田方2丁目16-45

TEL (082) 274-1600 FAX (082) 274-1322

<http://ph.wadoukai.jp/>

- 広島パークヒル病院 訪問リハビリテーション TEL (082) 272-7538
- 居宅介護支援事業所 おまかせ西広島 TEL (082) 507-1288
- 訪問看護ステーション ハローナース西広島 TEL (082) 274-3838
- 介護老人保健施設 西広島幸楽苑 TEL (082) 274-1311
- 西広島幸楽苑 通所リハビリテーション TEL (082) 507-1367
- 西広島グループホーム なごみの家 TEL (082) 274-1600
- 介護付き有料老人ホーム 西広島あかり苑 TEL (082) 271-6511



- 車の場合 / 西広島バイパスから広島湯来線を北に5分
山陽自動車道五日市ICから広島湯来線を南に10分
- バスの場合 / 「美鈴が丘・山田団地」「美鈴が丘高校」行き
広島高等技術専門学校前下車 徒歩5分

編集後記

この度、広島パークヒル病院広報誌TATTA2号を発行することとなりました。皆様の元に届けられることを嬉しく思います。また、広報誌作成にあたり、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。本来、この広報誌は春頃の発行を目指していましたが、「生みの苦しみ」というものなのでしょう。幾度となく修正・練り直し・(時には没)を繰り返し、やっと発行できる内容に至ったと感じています。いつの日か予定通りの発行ができる広報委員会を目指して精進いたします。何れともあれ、皆様に広島パークヒル病院を覚えていただければ幸いです。

